令和８年度　旭陽中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語３技能
３　年	学校	174	61	57	4.3	8.7	497
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

〇全国学力・学習状況調査
<国語>平均正答率については、全国平均より2.9%下回り大阪府平均と同じ値となった。また、問題形式別に捉えると、短答式、記述式の正答率が大阪府平均を上回る結果となった。
<数学>平均正答率については、全国平均と同じ値、大阪府平均より2.0%上回った。また、問題形式別に捉えると、短答式、記述式の正答率が大阪府平均を上回る結果となった。
<英語>平均IRTスコアは全国、大阪府平均より１～2ポイント下回る結果となった。また、技能別に捉えると、「聞くこと」について大阪府平均より上回る結果であった。

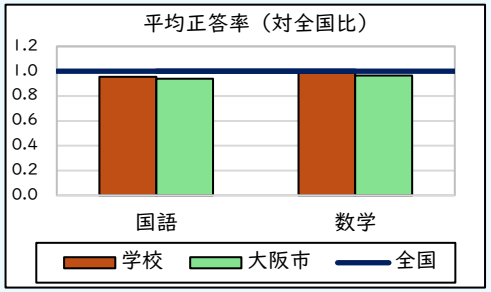
今後に向けて

授業規律を確保しつつ、基礎基本の定着を進める。また、生徒の学力向上のために授業改善の取り組みとして主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を引き続き進めていく。また、問いに対し、粘り強く思考し回答できる力を育成する。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

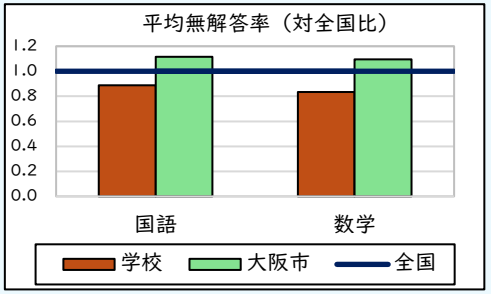
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	61	57
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



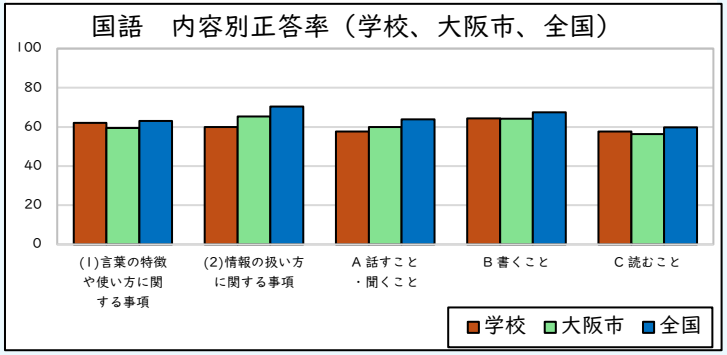
平均無解答率（%）

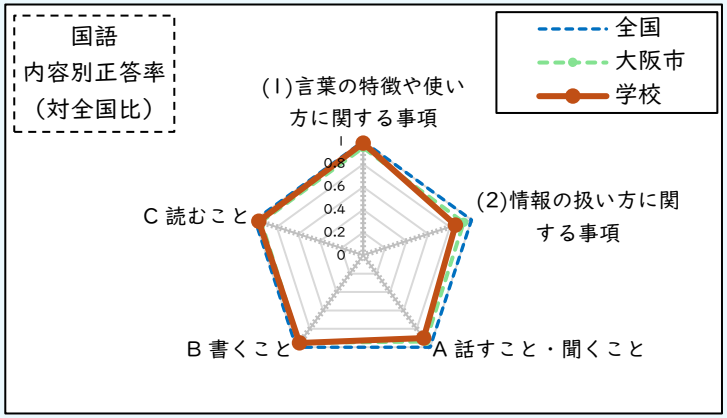
	国語	数学
学校	4.3	8.7
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

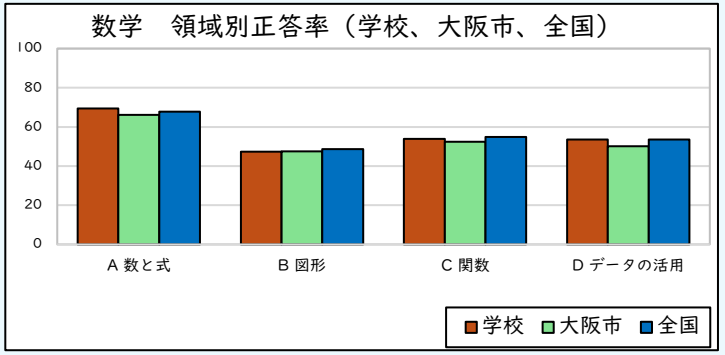
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	62.0	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	60.0	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	57.6	59.9	63.9
B 書くこと	3	64.3	64.2	67.4
C 読むこと	3	57.6	56.3	59.7

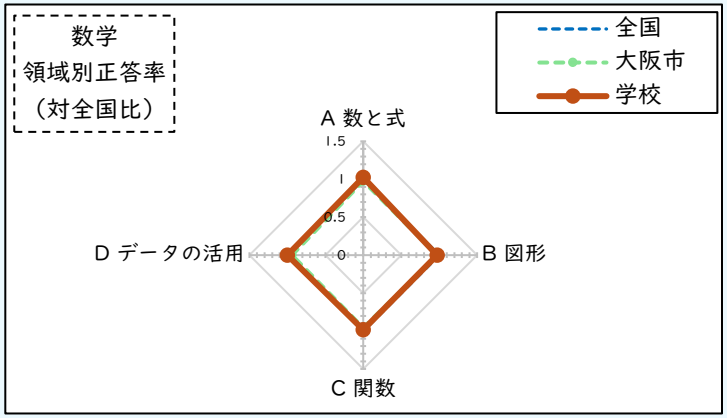




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	69.5	66.1	67.8
B 図形	4	47.4	47.6	48.7
C 関数	3	53.9	52.5	54.8
D データの活用	4	53.5	50.2	53.5

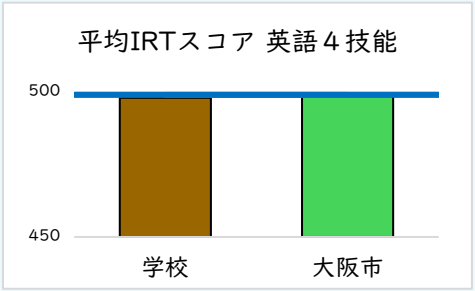




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	498（497）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

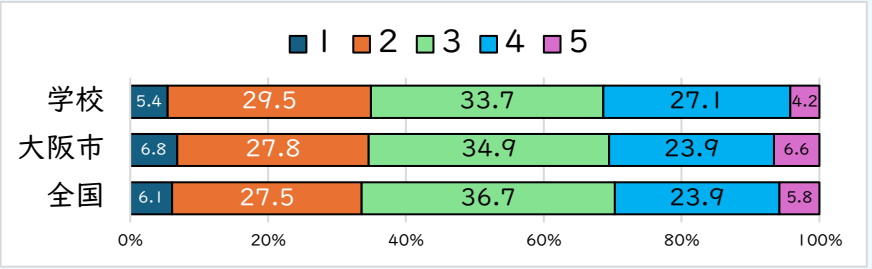
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

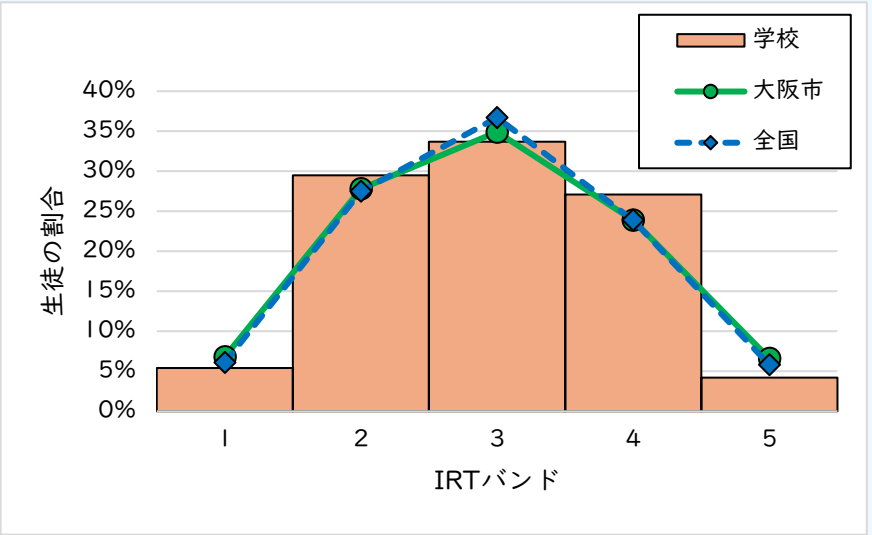
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	5.4	29.5	33.7	27.1	4.2
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



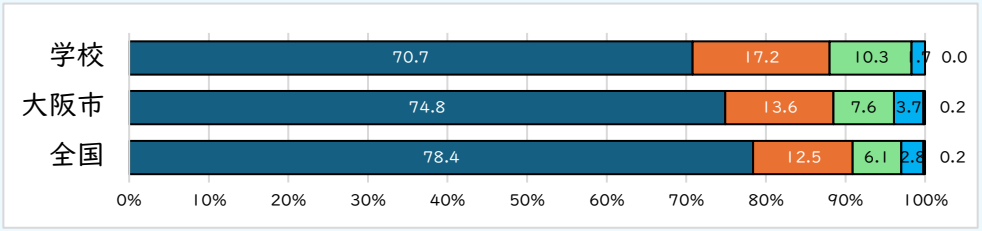
IRTバンド分布グラフ（４技能）



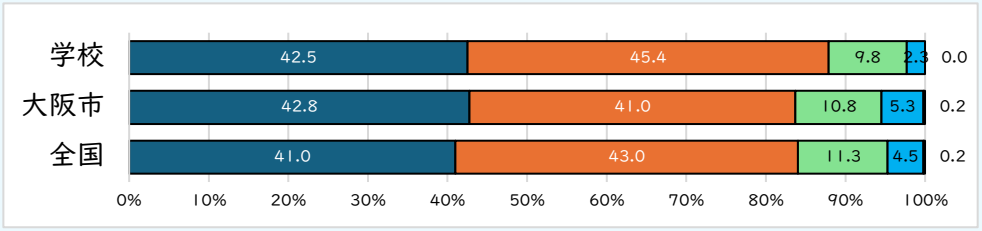
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

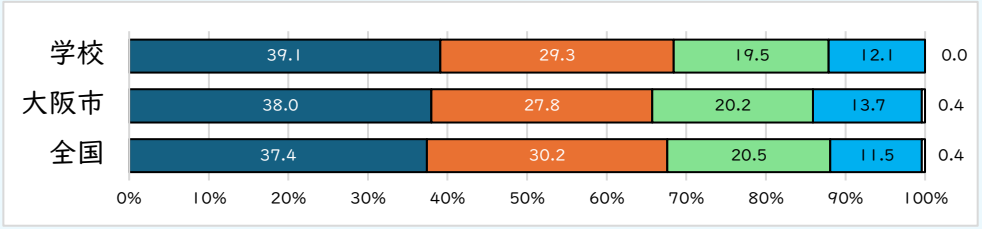
質問番号	質問事項
（1）	朝食を毎日食べていますか
（8）	自分には、よいところがあると思いますか
（10）	将来の夢や目標を持っていますか
（12）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（15）	学校に行くのは楽しいと思いますか



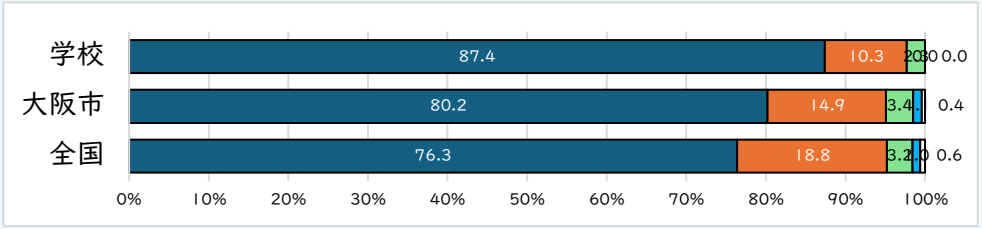
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない



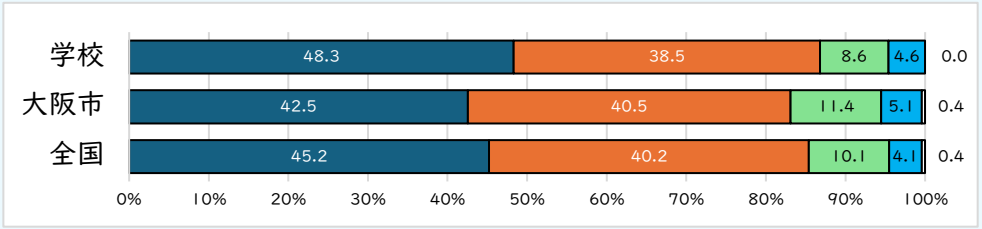
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない